

まるで中国の巨大庭園を散歩するようなコース。巨大な貯水池に浮かぶ半島を巡る。

「玄海青年の家」コース 福岡県 No.1  
JOA 公認 No.151 8km 10ポスト

## 38年の時を超えて

福岡県のトップバッター、玄海青年の家コースを紹介します。開設は今から38年も前の1971年のこと。当時私もまだ2歳。手元にあるオープン当初のマップのコピーと現在とを比較すると、国道495号線のバイパスが出来、グリーンパークが出来、ひびき動物ワールドが出来…。と、周辺の環境は大きく変化していることが分かります。

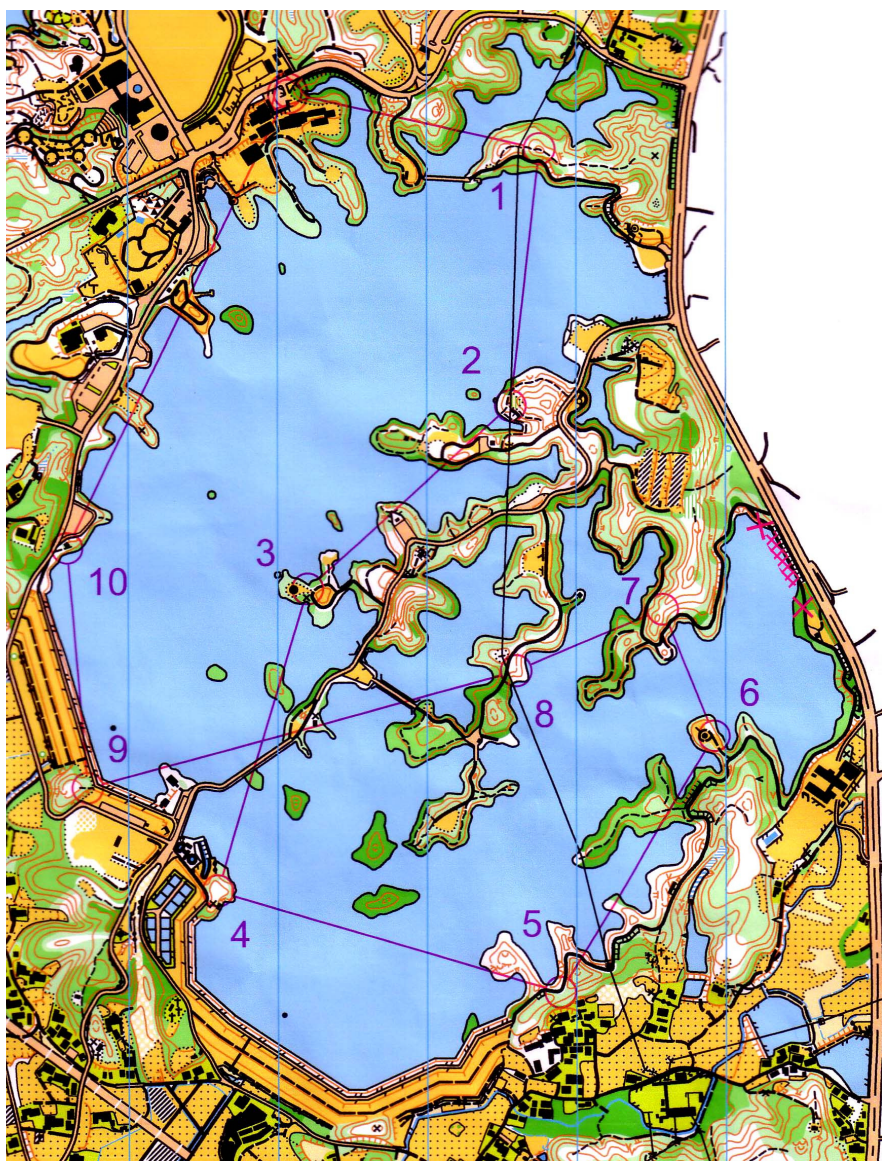
初代のコースは前半部分がグリーンパークに吸収されてしまい、大幅な変更を余儀なくされました。頓田貯水池の西側に広がる丘陵地帯をめぐるコースが貯水池を周遊するコースに生まれ変わり、これが現在のコースの原型となっています。私が初めて訪れたのはこの変更後の96年11月22日。13年前のことですが、今回は偶然にも全く同じ日付での再訪となりました。

この間、バイパス工事の影響で西側の一部がカットされたコースとなり、そして今年、回り順の改定と一部ポストの増設と変更があり、リニューアルされました。地図も08年11月までに調査された新品です。



スタート地点にある看板と見本

コースの所在地は響灘に面した北九州市若松区。スタート地点の玄海青年の家までは、JR筑豊本線「二島」駅より北九州市営バス「若松渡場」または「脇田」行きに乗り、「響灘緑地入口」で下車徒歩10分ほどです。前回はJR鹿児島本線「折尾」駅からの直通



バスを利用したのですが、今はなくなってしまったようです。

## メンテ状況は良好

青年の家入口には横長の大きな案内板が永年設置されています。前回もあったポストの見本はきれいに更新されていて、コースのリニューアルを告知しているかのようです。

事務所を訪れると、すんなりとマップを取り出してくれるのも好印象。コースは印刷済みで、マスターを転記する手間が省けます。今にも雨が降り出しそうな曇天のなか、11時28分にスタート。

第3ポストまではコースの変更がありません。道路を東に歩きはじめ、最初の遊歩道を南に入ります。真っ赤な橋を渡って東西に伸びる岬の突端へ渡り、尾根に続く小径を確認。OL気分が一気に加速する区間に入ると、鉄塔の先にあるピークに第1ポストが置かれています。貯水池周遊のコースの割に、ポストは巧みに引っ込められているところが幾つもあったりします。

穏やかな水面を眺めながら、マップ東端の主要道路を目指します。入江を回り込み、貯水池を南の「頓田第一貯水池」、北の「頓田第二貯水池」に分断する道路へ。緩やかに上りながら進み、

西に続く小道を見つめます。ふかふかの落ち葉を踏みしめながら広い小道を歩く先に第2ポストが待っています。

## まるで中国の巨大庭園

そのまま進むと広い道に抜け出し、東に向かうと先程の道路に戻ります。貯水池に突き出た狭い半島を進むユニークな区間に入ります。ただし、両脇は林に囲まれ、貯水池は林間からチラチラ見えるだけ。猫がたずむ駐車場を突っ切り「大北亭」の道標に従って右に入ります。このコースを印象付ける建造物である「大北亭（だいほくてい）」は、真っ赤な柱に黄金色の屋根瓦を乗せた六角形の中国建築の休憩所。北九州市と中国大連市との友好都市締結3周年を記念して昭和58年2月に建設されたもので、大連市と北九州市の頭文字からその名がつけられています。第3ポストは生垣からひょっこり顔を出しているのですぐに分かるでしょう。



大北亭と3番ポスト

回り順が8の字型に変更されたため、ここから前回とはルートが異なります。第4ポストは従来の第7ポストが充てられています。小雨がばらつき始める中、堤のようなこの区間はなぜか風が強く、差した傘が吹き飛ばされないようにするのに必死です。貯水池の西側に到達すると、第4ポストのある丘はすぐそこです。

第5ポストは今回新たに設置されたところ。以前の？番ポストの移設ではありますが…。排水処理場の水槽が広がる独特の景色を眺めながら、白い柵に囲まれた堤上の道を進みます。一本道をただただとどると、竹林の中にある第5ポストは自ずと目に入ります。

第6ポストは以前の第6ポストと同じですが、若干移動しています。池に沿った一本道を引き続き進み、目的地は休憩所のある岬。以前は東の尾根に設置されていたことと比較すると、グッと易くなっています。このあたり、地盤が緩いのか、ポストの手前で道路の一部が崩落しており、柵が土台ごと転落している場面に遭遇します。同じ

ように、第7ポストへ向かうルートにも崩落箇所があり、ここは完全に通行が規制されています。地図にも危険区域として刷り込まれていることから、復旧の目処は立っていないのでしょうか。

第7ポストは以前の第5ポスト。ポスト位置は以前と変わりありません。第一貯水池の東端を回り込む一部区間が通行止めのため、並行している道路に上がって回避します。池のほとりを忠実にトレースし、道から外れた鞍部に立つポストを発見します。



トレインの中央に広がる頓田貯水池

上ってきたところをそのまま戻るのではなく、反対側に下るのがいいでしょう。第8ポストは直線距離ではすぐのところなのですが、池を泳ぐわけにもいかず、北側にぐるりと回り込むこととなります。ちなみにここは以前の第4ポスト。ただし、ピークから道の脇に降ろされているため、発見はカンタンです。第3ポストへ向かう際に通り過ぎた猫のいる駐車場を再び通過。つい1時間半前には2匹いた猫の姿はどこへやら。葉の落ち切った枝のみを残す木立やスキの穂に囲まれた道を進み、すんなりとポストに到達します。

8→9は3→4のルートとほぼ重複しています。その重複区間に出るために渡るのが「緑の浮橋」。緑というより水色の柵のある湖面すれすれに架かる橋を歩いていきます。ちょうど目の前まで鴨の番いがやってきて、口を高速でパクパク動かしながら戯れる姿をしばらく楽ませてもらいました。雨は降り止んだものの、ここだけは依然風が強く吹き過ぎていきます。堤を渡り切り、第4ポストと反対方面へ向かうと第9ポストは間もなくです。初代コースの第8ポストと同じ位置で、ここだけタイプの違うポストが使用されています。



最後のポストは池に沿って北に歩くと、小さな建物の前で確認できます。

サイクリングターミナルや展望塔の「ひびきタワー」のあるグリーンパークに沿って道路を歩くと、間もなくゴールです。

この後、八幡西区の筑豊電鉄「三ヶ森」駅近くまで車で移動してラーメン屋（「ラーメン一発」という何とも勇ましい店名）でちょっと遅いランチ。そして、生誕100周年、「ゼロの焦点」の映画化で話題の「松本清張記念館」を訪問し、偉大な作家の足跡をたどってきました。

九州の玄関口小倉は見所満載です。

(2009年11月22日 踏破)

(大高竜亮)